

負債額別、10億円以上が前年比50.0%増加

負債額別では、負債1億円以上5億円未満が15件（前年比400.0%増、前年3件）で5倍増と急増、構成比も半数（51.7%）を占めた。また、4年ぶりに発生した同100億円以上の1件を含む同10億円以上も6件（前年比50.0%増）と大幅に増えた。

ただ、同1千万円以上5千万円未満も5件（前年ゼロ）と増加し、中堅規模の倒産が目立つ一方で、小規模ホールの倒産もジワジワと増えている。

2017(平成29)年パチンコホール 負債額別倒産状況

負債額	件数				負債総額(百万円)			
	当期	構成比	前年同期比	前年同期	当期	構成比	前年同期比	前年同期
10億円以上	6	20.68%	50.00%	4	25,138	86.10%	70.15%	14,774
5億円以上	1	3.44%	▲50.00%	2	850	2.91%	▲52.77%	1,800
1億円以上	15	51.72%	400.00%	3	2,871	9.83%	313.09%	695
5千万円以上	2	6.89%	▲33.33%	3	166	0.56%	10.66%	150
1千万円以上	5	17.24%	-	0	170	0.58%	-	0
合計	29	100%	141.66%	12	29,195	100%	67.60%	17,419

原因別、販売不振が2.7倍増加

原因別では、「販売不振」が19件（前年比171.4%）と2.7倍増で、構成比も65.5%を占めた。次いで、グループ企業に連鎖した「他社倒産の余波」が5件（前年ゼロ）、店舗や機器の投資負担から資金繰りに窮した「過小資本（運転資金の欠乏）」が3件（前年ゼロ）発生した。

主な倒産事例

(株)ゲンダイ（TSR企業コード：710167750、岡山県）は、ゲンダイグループの中核企業で、2006年には岡山県から関西地方に13店舗を展開、グループ売上高は約650億円を上げていた。だが、規制強化と市場縮小のなかで同業者との競合から業績が悪化。新規出店の資金負担も重く、遊技機器入替の決済資金を調達できずグループ2社（岡山、大阪）と同時に2017年1月、大阪地裁に民事再生法の適用を申請した。

新栄商事（有）（TSR企業コード：260166812、群馬県）は、4店舗を展開し一時は年商60億円台を維持していた。近年は遊技人口の減少や大手同業との競合で業績の低迷が続いていたが、2018年2月の出玉規制を見越して事業継続を断念。2017年9月、前橋地裁で破産開始決定を受けた。

2017(平成29)年 主な「パチンコホール」の倒産

企業コード	商号	所在地	資本金 (千円)	負債額 (百万円)	倒産原因	倒産形態
710167750	(株)ゲンダイ	岡山県	34,800	10,516	過小資本	民事再生法
012475726	(株)レジャーオート	岡山県	15,000	7,500	他社倒産の余波	民事再生法
575933275	(株)エイト・ワン企画	大阪府	3,000	2,000	他社倒産の余波	民事再生法
752141139	(株)マルギン	山口県	1,000	2,000	放漫経営	取引停止処分
260166812	新栄商事(有)	群馬県	8,000	1,922	販売不振	破産

パチンコ業界は、2018年2月から出玉上限を2,400個から1,500個に抑える出玉規制を柱とする改正風俗営業法の施行規則が適用される。経過措置により検定を通過した現行機は最長3年間の稼働が可能で、完全入替は2021年になる見込みだが、パチンコ依存症対策を目的とする本改正は遊技人口の減少に拍車をかけると危惧されている。

これまでもパチンコ・パチスロの規制強化はパチンコホールの淘汰につながった経緯がある。特に、2004年の「パチスロ5号機問題」による客離れと機器入替負担で、2007年の倒産は144件と過去最多を記録した。

2004年の「5号機問題」と同様に、この2月の出玉規制も客離れを招くか注目される。また、市場が縮小する中で規制をクリアした新機種への入替負担が、中小パチンコホールの経営に及ぼす影響を見極めることも必要だろう。業界のパチンコ依存症への対応は立ち遅れ感も否めず、風営法改正で従来の営業をどう変えていくか、経営のかじ取りが重要になってくる。

今後、パチンコ業界は大手と中小の市場二分化に加え、倒産や休廃業、店舗切り売りやM&Aなど、様々な動きが出てくると予想される。

2017(平成29)年パチンコホール 原因別倒産状況

主因	明細	件数				負債総額(百万円)			
		当期	構成比	前年同期比	前年同期	当期	構成比	前年同期比	前年同期
放漫経営	事業上の失敗	1	3.44%	▲50.00%	2	2,000	6.85%	▲52.21%	4,185
	事業外の失敗	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
	融手操作	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
	(小計)	(1)	(3.44%)	(▲50.00%)	(2)	(2,000)	(6.85%)	(▲52.21%)	(4,185)
過小資本	運転資金の欠乏	3	10.34%	-	0	10,856	37.18%	-	0
	金利負担の増加	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
	(小計)	(3)	(10.34%)	-	(0)	(10,856)	(37.18%)	-	(0)
他社倒産の余波		5	17.24%	-	0	9,976	34.17%	-	0
既往のシワ寄せ	①赤字累積	1	3.44%	▲50.00%	2	1,200	4.11%	▲78.15%	5,492
信用性低下	取引先の打切り	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
販売不振	②	19	65.51%	171.42%	7	5,163	17.68%	▲9.57%	5,710
売掛金等回収難	③	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
在庫状態悪化		0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
設備投資過大		0	0.00%	▲100.00%	1	0	0.00%	▲100.00%	2,032
その他	偶発的原因	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
合計		29	100.00%	141.66%	12	29,195	100.00%	67.60%	17,419
不況型倒産(①+②+③)		20	68.96%	122.22%	9	6,363	21.79%	▲43.19%	11,202

2017(平成29)年パチンコホール 形態別倒産状況

形態	件数				負債総額(百万円)			
	当期	構成比	前年同期比	前年同期	当期	構成比	前年同期比	前年同期
会社更生法	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
民事再生法	3	10.34%	-	0	20,016	68.55%	-	0
(再建型)	(3)	(10.34%)	-	(0)	(20,016)	(68.55%)	-	(0)
破産	14	48.27%	75.00%	8	5,269	18.04%	▲57.05%	12,269
特別清算	3	10.34%	50.00%	2	800	2.74%	▲15.78%	950
(消滅型)	(17)	(58.62%)	(70.00%)	(10)	(6,069)	(20.78%)	(▲54.08%)	(13,219)
法的倒産	20	68.96%	100.00%	10	26,085	89.34%	97.32%	13,219
取引停止処分	9	31.03%	350.00%	2	3,110	10.65%	▲25.95%	4,200
内整理	0	0.00%	-	0	0	0.00%	-	0
私的倒産	9	31.03%	350.00%	2	3,110	10.65%	▲25.95%	4,200
合計	29	100%	141.66%	12	29,195	100%	67.60%	17,419

2017(平成29)年パチンコホール 資本金別倒産状況

資本金	件数				負債総額(百万円)			
	当期	構成比	前年同期比	前年同期	当期	構成比	前年同期比	前年同期
1億円以上	0	0.00%	▲100.00%	1	0	0.00%	▲100.00%	2,032
5千万円以上	0	0.00%	▲100.00%	1	0	0.00%	▲100.00%	3,300
1千万円以上	12	41.37%	200.00%	4	21,476	73.56%	189.16%	7,427
5百万円以上	5	17.24%	150.00%	2	2,188	7.49%	2088.00%	100
1百万円以上	9	31.03%	125.00%	4	5,137	17.59%	12.65%	4,560
1百万円未満	2	6.89%	-	0	144	0.49%	-	0
個人企業他	1	3.44%	-	0	250	0.85%	-	0
合計	29	100%	141.66%	12	29,195	100%	67.60%	17,419